

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1292400072		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコートちはら台 1F		
所在地	千葉県市原市ちはら台東9-11-4		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成31年2月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

お客様の健やかな暮らしに貢献するという社是のもと、お客様が一日でも長く継続できることを目指し、ご自身で出来るところはやっていただき役割ややりがいを感じ、毎日楽しみがもてるような支援を心がけています。施設ではボランティアの方をお招きした行事や地域交流としてのバリアフリースポーツや町内清掃、防犯パトロール、乙月祭りやはら台敬老会等に参加致しました。また、今年は初めて近隣の小学生の職場体験の場として提供や「ちはら台医療と介護のつどい」にて地域住民の方々の介護相談の場に参加し、地域とより一層深いかかわりがもてるようになりました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域で開かれている「ポッチャ」の活動への参加を継続しており、利用者も地域の方と交流を図りながら楽しく取り組むことができています。また今年度は小学生の職場体験学習の受け入れや学校の先生方のボランティアの受け入れなども行うことで小学校と良好な関係を構築することができています。日々の支援においても職員同士良好なチームワークを築き、利用者とも馴染みの関係を構築できていることで各ユニット利用者の笑顔が多く見受けられています。今後に向けてはさらなる地域交流の拡大や外出活動の充実を図り、サービスの質の向上に向け前向きに取り組む姿勢が確認できました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是・経営理念の理解した上で事業所のスローガンを全職員が共有し実践につなげています。	会社の社是、経営理念、心得を毎月の会議前に職員全体で唱和をして共有化を図っています。また、ホーム独自において職員や利用者みんなが楽しく過ごせるように「Let's Enjoy」をホームのスローガンに掲げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域のイベントに参加やお手伝い、お客様との散歩や近隣の施設(スーパーや神社、飲食店など)に出かけ、地域とのつながりを保っています。	今年度は小学校からの依頼を受けて職場体験の受け入れを行っています。受け入れにより子ども達と交流を図ることができています。また地域のお祭りや敬老会への参加、ポッチャの活動にも継続して取り組み地域と交流を図っています。	小学生の職場体験や学校の先生方のボランティアの受け入れなどを通じて交流を深めていますが、ホームとしてもより交流の拡充を検討しており、地域交流のさらなる充実を今後期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や地域のイベントなどの地域交流の場には出来る限り、お客様と参加をしています。お問い合わせには随時介護相談を受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様の状況・施設内や地域活動等の報告をし他職種の方、ご家族様と情報共有をしアドバイスをいただいています。	会議には地域包括支援センター、民生委員、連携先の薬局、家族の参加を受け2ヶ月に一度定期的に実施しています。会議では利用者の現状、ホームの取り組み状況の報告のほか地域情報の収集や外出先のアドバイスなども頂き有意義な会議としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類は速やかに提出し、運営上の疑問等は電話、もしくは直接お伺いし相談と指導をいただいています。	運営上疑問が生じた際には、市の担当課に連絡を入れ指示を仰ぐようにしています。質問には丁寧に回答があり、市の担当課とも協力関係を築くことができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については外部研修参加や拠点研修を行い学んでおります。安全面を考え、玄関・階段の施錠は行っています。3か月に1回身体拘束適正委員会を開催。状況の報告等を行っています。	「身体拘束適正化のための指針」を作成し指針に基づき身体拘束適正化委員会を2ヶ月毎の運営推進会議で実施しています。事業所内でも年2回研修を実施し職員全体の意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて身体拘束・虐待による弊害を学び防止に努めています。定期面談にて毎回職員に問いかけて、現状を把握しています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行い、職員の理解を含め資料を閲覧できるようにファイリング。いつでも各自で確認できるようにし、疑問点があった場合指導を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明をしっかりと行い、お客様・ご家族様の不安や疑問にお答えし、ご納得いただいた上で署名・捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪・担当者会議・運営推進会議・電話・メール連絡の際にご意見・ご要望を伺い、その都度申し送りをし職員に伝達し共有・反映しています。	家族からの意見や要望については面会時に直接伺うほか、法人全体で年に一度顧客満足度調査を実施しています。家族から表出された意見を踏まえて改善計画書を作成し改善につなげています。利用者からの意見については日常会話から収集しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、定期面談以外にも自由記述のできるノートの活用と拠点会議・各フロアごとの会議も行い提案を聞く機会を設け、反映させています。	3ヶ月に一度定期の個人面談を実施し職員からの意向や要望等を定期的に確認しています。定期面談では不適切な対応が現場内で発生していないかについて確認を行うようにしています。定期面談以外にも管理者や主任が中心となり各職員へ声をかけ意向や要望等を抽出しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がまとめた職員1人1人の情報を統括し環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回社内研修を行い、知識・技術の習得を目指しています。主任・リーダーは本社研修参加や社外研修の紹介と参加を促しています。また、新卒入社の社員は1~3年目研修に参加。育成に力を入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種の方や他の事業所の方が参加される研修や会議には、出来る限り参加させていただき定期的に訪問し交流を図っています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に要望や背景の把握に努め職員間での情報共有と対応を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の望んでいる生活を重視し、ご家族様の要望を踏まえた上で出来ること・出来ないことをお伝えの上、話し合いをし提案をしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の段階でご本人に必要とする支援は何かを見極めた上で介護サービスの種類や利用料等をお伝えし判断材料としていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から、こまめに連絡をとり、ご家族様と情報共有し共に支える関係を築けるよう努めています。ご本人ともコミュニケーションを密にとり、よりよい関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、こまめに連絡をとり、本人の体調の変化や相談などご家族様と情報共有をして、共に支える関係作りを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出や外泊、ご家族様、ご友人からの電話のとりつぎや手紙の受け渡し、昔から利用している施設(病院など)の利用を行っています。	馴染みの人や場所との関係の継続に向けて友人から電話がかかった際には本人につないだり、手紙でのやり取りなども継続しています。また通い慣れた歯科への継続受診なども行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が関わりを持っていただけるようにレクリエーションや共同作業の場を提供し、一緒にお過ごしいただけるよう働き掛けをしています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても気軽に相談いただけるよう声かけし、その後の様子を伺うようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の希望や意向は、普段の会話の中や関わりから把握に努め、ご本人様が望む暮らしに近づけるよう支援に反映させています。	利用者からの意向や要望等については、職員が日常会話から収集し、日々の支援に活かしています。また、ケアプランの更新及び見直し時にはアセスメントを実施し、利用者の現状や課題、思い等を抽出しケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴をご本人やご家族様からお伺いし可能な限り従来の生活にズレがないように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握と日々の体調変化に注意をし、申し送り等を通じて職員間の共有を行っています。ご家族様にもこまめに現状の報告を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、ご本人やご家族様と話す機会を設け定期的に見直しを行っています。往診時に主治医、看護師、薬剤師に相談やアドバイスをいただきケアプランや日々の支援に反映しています。	アセスメントで抽出した結果を踏まえ、担当者会議において職員、家族の意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標の達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	今後に向けてはケアプランの作成及び見直しにあたっては主治医や看護師など多職種の見解も踏まえて作成できると良いと考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様の日々の状態を個別に記録をし申し送りや業務日誌、連絡ノート、会議等で情報共有し支援の見直しを行い実践に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や地域交流の場へ出来る限り参加をしています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防犯パトロールや地域清掃、イベントの参加、ボランティアの方をお招きしての交流会、小学生の職場体験を行い、一人ひとり地域住民とのつながりを持てるように支援をします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関のご説明をさせていただき月2回の往診や訪問歯科を受けられるようにしています。また、ご家族様と相談し必要に応じた医療に関しては通院を行っています。	提携先医療機関による往診が定期的であり、必要な医療を受けられる体制としています。医療機関とは24時間のオンコール体制を築き、体調変化時にも迅速に対応できる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて協力医療機関の看護師や施設看護師への情報提供と相談をし、お客様が適切な医療を受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には速やかに入院先の情報提供を行っています。入院中は状況確認に伺い、病院関係者との情報交換、今後の治療や経過、方針についてヒヤリングを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にできることとできないことのご説明。重度化が見られた場合は、ご本人様やご家族様と話し合いをし医療関係者を交えて今後のケアにむけて方針を検討しています。	重度化や終末期に向けた方針については、利用契約の際にホームとして取り組めることを家族に説明し方針を共有しています。ホームで生活を送る中で重度化が見られる際には、主治医、家族と今後の方針について再度検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃からお客様の急変や事故の事例等を申し送りや書類にて共有し、初期対応できるように拠点研修等で再確認を行い実践につなげています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの防災訓練を年2回実施。研修にて災害マニュアルの活用をし意識を高め方法を再確認しています。	平成30年9月に火災を想定した消火、通報、避難訓練を実施しています。平成31年3月に年度内2度目の訓練を予定しています。周辺の水害状況についてもハザードマップで確認しています。また災害に備えてお米や食料、水などの備蓄品を整えています。	

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りや拠点会議、定期面談にて、お客様への対応を振り返り誇りやプライバシーを損ねない様に努めています。	事業所内において接遇・マナー研修を実施し利用者への言動や行動等の振り返りにつなげています。またトイレ誘導時の声掛けや居室への出入りについても羞恥心やプライバシーに配慮し不適切な対応が無いように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいもの、やりたいこと、行きたいところ等をお客様と一緒に考え、ご本人様の思いを伺い、自己決定ができるように支援することを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切に、何をしたいのか、どのように過ごしたいのかご本人様の思いを伺い、自己決定ができるように支援することを心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの洋服選びや髭剃りなどはお声掛けしお手伝いをしています。2か月に1回訪問美容で整髪やカラーリングを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と職員は昼食をテーブルを囲み、談笑しながら食事を召上っています。おしぼり作りやお茶いれなどできることをお手伝いいただけるよう働き掛けをしています。	野菜の皮むきやお茶入れ、配膳などは利用者にも声をかけ職員と一緒にを行っています。食事を楽しむ工夫ではお正月や節分などで行事食を取り入れたり、近隣に外出に出かけ普段とは違う雰囲気のお食事が楽しめるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を心がけています。水分量は目標設定された水分を摂取していただくよう声掛け、工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師による指導を受け毎食後の口腔ケア、就寝前の義歯洗浄などを行い清潔保持に努めています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄記録をし、パターンの把握と習慣等を活かしてトイレ誘導の支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌内の所定欄に排泄に関する記録を残しています。利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し水分摂取や体操の参加の声掛けを行い個々の排泄間隔の把握に努めています。水分も牛乳提供などの工夫をします。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設けていますが、ご本人様の体調やご意向に合わせた変更等を行っています。またゆず湯や入浴剤を使用し入浴に楽しみをもっていただけるように支援しています。	利用者の体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できる体制としています。また、ゆず湯や菖蒲湯などの季節風呂や利用者が順番で一番風呂を楽しめるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人のペースを大切に、状況に合わせて声掛けを行い柔軟な対応を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診時には主治医や薬剤師より服薬指導と薬剤の説明を受けています。職員は、お客様の症状や状態の変化の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様が好きなことや得意なことを継続できる場を提供し、塗り絵・折り紙・歌など気分転換になるよう支援しています。小規模多機能で行われているクラブ活動にも順次参加しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良いときには施設周辺の散歩や外気浴を行っています。またお買い物やお客様の要望に合わせて外食会を行っています。	天候や気候の良い時期にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、日常的にも近隣のドラッグストアまで買い物に出かけたり、近隣公園までの散策、地域行事への参加などを通じて定期的に戸外に出かけられるように取り組んでいます。	



グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が購入したい物があれば、お預かりしているお小遣いの中から、ご本人の希望の物を選んで頂き購入しています。買い物に行ける方は一緒に行き、選んでいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の受け渡しを行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計を置き、管理をしています。季節ごとに装飾をし、玄関・各フロアは季節がわかるように工夫しています。装飾品はレクリエーションでお客様と一緒に作ります。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお客様同士でのおしゃべりやソファを自由に使っていただける空間を提供しています。座席も孤立しない様配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたものを入居の際にお持ちいただけるようご案内をし、入居後はご本人やご家族様と相談し配置をしております。	居室は、利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様が「できること」「わかること」を把握した自立した生活がおくれるようにしています。掃除や洗濯物たたみ、洗い物などの声掛けを行っています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400072		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコートちはら台 2F		
所在地	千葉県市原市ちはら台東9-11-4		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成31年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の健やかな暮らしに貢献するという社是のもと、お客様が一日でも長く継続できることを目指し、ご自身で出来るところはやっていただき役割ややりがいを感じ、毎日楽しみがもてるような支援を心がけています。施設ではボランティアの方をお招きした行事や地域交流としてのバリアフリースポーツや町内清掃、防犯パトロール、乙月祭りやはら台敬老会等に参加致しました。また、今年は初めて近隣の小学生の職場体験の場として提供や「ちはら台医療と介護のつどい」にて地域住民の方々の介護相談の場に参加し、地域とより一層深いかかわりがもてるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で開かれている「ポッチャ」の活動への参加を継続しており、利用者も地域の方と交流を図りながら楽しく取り組むことができています。また今年度は小学生の職場体験学習の受け入れや学校の先生方のボランティアの受け入れなども行うことで小学校と良好な関係を構築することができています。日々の支援においても職員同士良好なチームワークを築き、利用者とも馴染みの関係を構築できていることで各ユニット利用者の笑顔が多く見受けられています。今後に向けてはさらなる地域交流の拡大や外出活動の充実を図り、サービスの質の向上に向け前向きに取り組む姿勢が確認できました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是・経営理念の理解した上で事業所のスローガンを全職員が共有し実践につなげています。	会社の社是、経営理念、心得を毎月の会議前に職員全体で唱和をして共有化を図っています。また、ホーム独自において職員や利用者みんなが楽しく過ごせるように「Let's Enjoy」をホームのスローガンに掲げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域のイベントに参加やお手伝い、お客様との散歩や近隣の施設(スーパーや神社、飲食店など)に出かけ、地域とのつながりを保っています。	今年度は小学校からの依頼を受けて職場体験の受け入れを行っています。受け入れにより子ども達と交流を図ることができています。また地域のお祭りや敬老会への参加、ポッチャの活動にも継続して取り組み地域と交流を図っています。	小学生の職場体験や学校の先生方のボランティアの受け入れなどを通じて交流を深めていますが、ホームとしてもより交流の拡充を検討しており、地域交流のさらなる充実を今後期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や地域のイベントなどの地域交流の場には出来る限り、お客様と参加をしています。お問い合わせには随時介護相談を受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様の状況・施設内や地域活動等の報告をし他職種の方、ご家族様と情報共有をしアドバイスをいただいています。	会議には地域包括支援センター、民生委員、連携先の薬局、家族の参加を受け2ヶ月に一度定期的を実施しています。会議では利用者の現状、ホームの取り組み状況の報告のほか地域情報の収集や外出先のアドバイスなども頂き有意義な会議としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類は速やかに提出し、運営上の疑問等は電話、もしくは直接お伺いし相談と指導をいただいています。	運営上疑問が生じた際には、市の担当課に連絡を入れ指示を仰ぐようにしています。質問には丁寧に回答があり、市の担当課とも協力関係を築くことができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については外部研修参加や拠点研修を行い学んでおります。安全面を考え、玄関・階段の施錠は行っています。3か月に1回身体拘束適正委員会を開催。状況の報告等を行っています。	「身体拘束適正化のための指針」を作成し指針に基づき身体拘束適正化委員会を2ヶ月毎の運営推進会議で実施しています。事業所内でも年2回研修を実施し職員全体の意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて身体拘束・虐待による弊害を学び防止に努めています。定期面談にて毎回職員に問いかけて、現状を把握しています。		

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行い、職員の理解を含め資料を閲覧できるようにファイリング。いつでも各自で確認できるようにし、疑問点があった場合指導を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明をしっかりと行い、お客様・ご家族様の不安や疑問にお答えし、ご納得いただいた上で署名・捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪・担当者会議・運営推進会議・電話・メール連絡の際にご意見・ご要望を伺い、その都度申し送りをし職員に伝達し共有・反映しています。	家族からの意見や要望については面会時に直接伺うほか、法人全体で年に一度顧客満足度調査を実施しています。家族から表出された意見を踏まえて改善計画書を作成し改善につなげています。利用者からの意見については日常会話から収集しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、定期面談以外にも自由記述のできるノートの活用と拠点会議・各フロアごとの会議も行い提案を聞く機会を設け、反映させています。	3ヶ月に一度定期の個人面談を実施し職員からの意向や要望等を定期的に確認しています。定期面談では不適切な対応が現場内で発生していないかについて確認を行うようにしています。定期面談以外にも管理者や主任が中心となり各職員へ声をかけ意向や要望等を抽出しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がまとめた職員1人1人の情報を統括し環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回社内研修を行い、知識・技術の習得を目指しています。主任・リーダーは本社研修参加や社外研修の紹介と参加を促しています。また、新卒入社の社員は1～3年目研修に参加。育成に力を入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種の方や他の事業所の方が参加される研修や会議には、出来る限り参加させていただき定期的に訪問し交流を図っています。		

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に要望や背景の把握に努め職員間での情報共有と対応を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の望んでいる生活を重視し、ご家族様の要望を踏まえた上で出来ること・出来ないことをお伝えの上、話し合いをし提案をしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の段階でご本人に必要とする支援は何かを見極めた上で介護サービスの種類や利用料等をお伝えし判断材料としていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から、こまめに連絡を取り、ご家族様と情報共有し共に支える関係を築けるよう努めています。ご本人ともコミュニケーションを密にとり、よりよい関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、こまめに連絡を取り、本人の体調の変化や相談などご家族様と情報共有をして、共に支える関係作りを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出や外泊、ご家族様、ご友人からの電話のとりつぎや手紙の受け渡し、昔から利用している施設(病院など)の利用を行っています。	馴染みの人や場所との関係の継続に向けて友人から電話がかかった際には本人につないだり、手紙でのやり取りなども継続しています。また通い慣れた歯科への継続受診なども行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が関わりを持っていただけるようにレクリエーションや共同作業の場を提供し、一緒にお過ごしいただけるよう働き掛けをしています。		

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても気軽に相談いただけるよう声かけし、その後の様子を伺うようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の希望や意向は、普段の会話の中や関わりから把握に努め、ご本人様が望む暮らしに近づけるよう支援に反映させています。	利用者からの意向や要望等については、職員が日常会話から収集し、日々の支援に活かしています。また、ケアプランの更新及び見直し時にはアセスメントを実施し、利用者の現状や課題、思い等を抽出しケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴をご本人やご家族様からお伺いし可能な限り従来の生活にズレがないように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握と日々の体調変化に注意をし、申し送り等を通じて職員間の共有を行っています。ご家族様にもこまめに現状の報告を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、ご本人やご家族様と話す機会を設け定期的に見直しを行っています。往診時に主治医、看護師、薬剤師に相談やアドバイスをいただきケアプランや日々の支援に反映しています。	アセスメントで抽出した結果を踏まえ、担当者会議において職員、家族の意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標の達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	今後に向けてはケアプランの作成及び見直しにあたっては主治医や看護師など多職種の見解も踏まえて作成できると良いと考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様の日々の状態を個別に記録をし申し送りや業務日誌、連絡ノート、会議等で情報共有し支援の見直しを行い実践に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や地域交流の場へ出来る限り参加をしています。		

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防犯パトロールや地域清掃、イベントの参加、ボランティアの方をお招きしての交流会、小学生の職場体験を行い、一人ひとり地域住民とのつながりを持てるように支援をします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関のご説明をさせていただき月2回の往診や訪問歯科を受けられるようにしています。また、ご家族様と相談し必要に応じた医療に関しては通院を行っています。	提携先医療機関による往診が定期的であり、必要な医療を受けられる体制としています。医療機関とは24時間のオンコール体制を築き、体調変化時にも迅速に対応できる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて協力医療機関の看護師や施設看護師への情報提供と相談をし、お客様が適切な医療を受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には速やかに入院先の情報提供を行っています。入院中は状況確認に伺い、病院関係者との情報交換、今後の治療や経過、方針についてヒヤリングを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にできることとできないことのご説明。重度化が見られた場合は、ご本人様やご家族様と話し合いをし医療関係者を交えて今後のケアにむけて方針を検討しています。	重度化や終末期に向けた方針については、利用契約の際にホームとして取り組めることを家族に説明し方針を共有しています。ホームで生活を送る中で重度化が見られる際には、主治医、家族と今後の方針について再度検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃からお客様の急変や事故の事例等を申し送りや書類にて共有し、初期対応できるように拠点研修等で再確認を行い実践につなげています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの防災訓練を年2回実施。研修にて災害マニュアルの活用をし意識を高め方法を再確認しています。	平成30年9月に火災を想定した消火、通報、避難訓練を実施しています。平成31年3月に年度内2度目の訓練を予定しています。周辺の水害状況についてもハザードマップで確認しています。また災害に備えてお米や食料、水などの備蓄品を整えています。	

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りや拠点会議、定期面談にて、お客様への対応を振り返り誇りやプライバシーを損ねない様に努めています。	事業所内において接遇・マナー研修を実施し利用者への言動や行動等の振り返りにつなげています。またトイレ誘導時の声掛けや居室への出入りについても羞恥心やプライバシーに配慮し不適切な対応が無いように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいもの、やりたいこと、行きたいところ等をお客様と一緒に考え、ご本人様の思いを伺い、自己決定ができるように支援することを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切に、何をしたいのか、どのように過ごしたいのかご本人様の思いを伺い、自己決定ができるように支援することを心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの洋服選びや髭剃りなどはお声掛けしお手伝いをしています。2か月に1回訪問美容で整髪やカラーリングを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と職員は昼食をテーブルを囲み、談笑しながら食事を召上っています。おしぼり作りやお茶いれなどできることをお手伝いいただけるよう働き掛けをしています。	野菜の皮むきやお茶入れ、配膳などは利用者にも声をかけ職員と一緒にを行っています。食事を楽しむ工夫ではお正月や節分などで行事食を取り入れたり、近隣に外出に出かけ普段とは違う雰囲気のお食事が楽しめるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を心がけています。水分量は目標設定された水分を摂取していただくよう声掛け、工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師による指導を受け毎食後の口腔ケア、就寝前の義歯洗浄などを行い清潔保持に努めています。		



グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄記録をし、パターンの把握と習慣等を活かしてトイレ誘導の支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌内の所定欄に排泄に関する記録を残しています。利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し水分摂取や体操の参加の声掛けを行い個々の排泄間隔の把握に努めています。水分も牛乳提供などの工夫をします。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設けていますが、ご本人様の体調やご意向に合わせた変更等を行っています。またゆず湯や入浴剤を使用し入浴に楽しみをもっていただけるように支援しています。	利用者の体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できる体制としています。また、ゆず湯や菖蒲湯などの季節風呂や利用者が順番で一番風呂を楽しめるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人のペースを大切に、状況に合わせて声掛けを行い柔軟な対応を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診時には主治医や薬剤師より服薬指導と薬剤の説明を受けています。職員は、お客様の症状や状態の変化の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様が好きなことや得意なことを継続できる場を提供し、塗り絵・折り紙・歌など気分転換になるよう支援しています。小規模多機能で行われているクラブ活動にも順次参加しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良いときには施設周辺の散歩や外気浴を行っています。またお買い物やお客様の要望に合わせて外食会を行っています。	天候や気候の良い時期にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、日常的にも近隣のドラッグストアまで買い物に出かけたり、近隣公園までの散策、地域行事への参加などを通じて定期的に戸外に出かけられるように取り組んでいます。	

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が購入したい物があれば、お預かりしているお小遣いの中から、ご本人の希望の物を選んで頂き購入しています。買い物に行ける方は一緒に行き、選んでいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の受け渡しを行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計を置き、管理をしています。季節ごとに装飾をし、玄関・各フロアは季節がわかるように工夫しています。装飾品はレクリエーションでお客様と一緒に作ります。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお客様同士でのおしゃべりやソファを自由に使っていただける空間を提供しています。座席も孤立しない様配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたものを入居の際にお持ちいただけるようご案内をし、入居後はご本人やご家族様と相談し配置をしております。	居室は、利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様が「できること」「わかること」を把握した自立した生活がおくれるようにしています。掃除や洗濯物たたみ、洗い物などの声掛けを行っています。		